

三重県交通安全研修センターだより

～三重県交通安全研修センターをご存知ですか？～

幼児から高齢者まですべての方が、日常生活の中に潜んでいる交通に関する様々な危険について学習し、楽しみながら身をもって交通ルールやマナーを学ぶことが出来る施設です。
団体研修も行っています！

ご利用はすべて無料！

♪開館時間：午前 9:30～午後 4:30

♪休館日：土曜・祝日・年末年始

(12/29～1/3)

♪(TEL) 059-224-7721

♪(FAX) 059-224-7641

♪〒514-8518 津市壺水2566

(三重県運転免許センター4階)

♪<http://www.safetyplaza-mie.com>

～聞く・見る・体験する～

シミュレータ

あなたの反応時間は？
確かな判断できる？



展示ゾーン

どんな危険があるの？
夜間・死角・交差点…



自転車コース

ルール知ってるかな？
自転車も車の仲間だよ



実車体験

いざという時大丈夫？
車は急にとまれない！



実際に聞いて・見て・体験することが大切です！一人でも大丈夫、お気軽にお越し下さい。
団体研修はお電話でご予約下さい。お待ちしております！



昨年、県内の交通死者が118人と激減しました。

これは前年よりも49人少なくなっており、高齢者や飲酒事故の減少が要因とされています。

今年も事故をさらに減らせるように、ドライバー 一人一人が意識し、安全運転を心掛けましょう。



事故防止のための安全運転を！



さて、もうすぐ春になりますが、春の運転ではどのような事に気が付いたら良いでしょうか。

4月になると、新入生や新入社員が多いのは当然のことです。

ドライバーの中にも、最近免許を取ったばかりの初心者マークドライバーや通勤経路に不慣れな人が多いことが想像できます。また、新入児童が道路ではしゃいでいるかもしれません。あらゆる危険予測をしながら、安全運転をする事が大切です。

街中には自動車だけでなく、自転車や二輪車も通行しています。車どうしの関係だけでなく、他の交通にも気を配らなくてはなりません。

特にこの時期は、自転車に乗る中高校生に気がつけたいものです。「交通事故」というと、車どうしの事故を想像しがちですが、車対自転車の事故も年々増えてきています。

中高生に多いのが、二人乗り・立ち乗り・話しながらの並列走行・携帯電話を使いながらの走行などです。また、スピードも出しすぎる人がたくさんいるので危険です。話に夢中になっている自転車利用者は、車の存在に気付かず、急に進路変更をするかもしれません。

路肩を走行している自転車を追い抜く時は、まず十分な距離を保ち、いつ何が起きても対処できる速度に落とすことが大切です。

また、踏切などでは自転車を先に渡らせましょう。

路面に凸凹が多い踏切などでは、ただでさえ不安定な自転車はなおさら危険です。短い距離のことですから、

フラフラしている自転車の横を通るのは止めましょう。

二輪車や自転車、そして歩行者は、弱い存在です。弱者を保護する運転もドライバーには義務付けられています。



いつもより5～10分早く家を出てみましょう！

まず、時間に余裕を持つことが大切です。時間に余裕がないと、確認が疎かになったり、黄色信号や、止まらなければならないところでも「時間がなくなってしまう」という気持ちになってしまいイライラしがちです。また、道路を走る時は、他の車と自分の関係を常に把握して行動することが欠かせません。ちょっとした配慮が、車の流れをスムーズにして、事故を減らすのです。

急停車、無理な割り込みや追い越し、交差点付近のポジション争い、どれもが交通の流れを妨げる行為です。皆、少しでも先に進みたいという理由でこのような行為をしがちですが、大した差にはなりません。幹線道路で5分間に通過する車の台数は何十台か場合によっては何百台にもなるでしょう。

これは5分早く出発すれば、それだけの車を追い抜いたのと同じことになるわけです。
逆にいえば、迷惑をかけながら1台や2台の車を抜いたところで大した差にはなりません。



ウィンカーを出してから3秒 待ちましょう！

事故を防ぐには、他車との協調性を持つことが大切です。指示器を出さなかったり、周辺の状態を全く考えずに強引に車線を変更するのは、協調性のない証拠です。

指示器を出してから行動を起こすまでに、少なくとも3秒間は時間を置きましょう。3秒間指示器を点滅させれば周辺の車が自分の車の動きに対してどう反応するかをつかむことができます。

譲ってくれる車は車間距離を開けてくれるでしょうし、危険を感じた車はクラクションを鳴らすでしょう。

ブレーキも同様で、後続車との距離や速度を考えずに踏めば危険です。停止する時は後続車に十分な車間距離をとらせるためにも、数回に分けて踏んだ方がいいのです。



ながら運転はやめましょう！

運転をしている時、ドライバー本人は集中して運転をしているつもりでも、意外に「ながら運転」が多いものです。例えば「タバコを吸いながら」「缶コーヒーを飲みながら」「音楽を聴きながら」「カーナビを見ながら」など、これらもすべて「ながら運転」です。「ながら運転」は携帯電話の使用だけではないのです。

運転中の携帯電話の使用は禁止されていますが、まだたくさんの方が運転中に使用しているのが見られます。特に渋滞中や信号で止まっている時の通話が目立ちますが、話しているうちに車が動き出すことも十分に考えられるので、やめましょう。どうしても伝えなければならないことがある時は、最小限の用件だけを話しましょう。車が動き出したら相手に運転中であることを伝え、電話を切りましょう。

缶コーヒーを飲みながら運転とは、すなわち片手運転ということです。ハンドルは2本の手で保持しなければ適切な切り戻しはできません。タバコはさらに危険です。片手運転になるばかりか、灰を落とすたびに灰皿に視線が移動してしまいますから、前方不注意にもなります。もし、火種が膝元にでも落ちたら運転に集中するどころではなくなってしまいます。

ドリンクホルダーや灰皿は、運転中に飲んだり吸ったりすることを勧めているわけではありません。必ず止まってからにしましょう。



発進する前に一呼吸しよう！

例えば赤信号で停止した時、青信号ですぐに発進するのではなく、一呼吸してから発進しましょう。「信号をきちんと守れば大丈夫」と思っていると、危険です。信号をしっかりと守っていないドライバーもいますから、信号機の指示に従いながらも、周囲に気を配ることが必要です。

交差点で交差する道路の信号が赤に変わっても自分の車線が青に変わるには3秒かかります。相手方の信号が赤になっても、自分側の信号は青になったわけではありません。しかし朝の急いでいる時などは、この3秒が待てずに見切り発車してしまい、交差する道路から滑り込んできた車と接触事故を起こすことがあるのです。

ヘッドライトのロービーム・ハイビーム

夜間に車を運転する時、ヘッドライトはロービームとハイビームのどちらにしていますか？ロービームで運転することがほとんどではないでしょうか？

人の目は、明かりがなければ何も見ることができません。夜間になれば明かりのない道路ではヘッドライトだけが頼りになります。しかし、市街地などの運転がほとんどというドライバーは『対向車や先行車の運転の妨げになる』などの理由からロービームが基本と思込み、暗い道路でもハイビームを使わないドライバーが少なくないと思います。

道路運送車両の保安基準では、夜間照射時にハイビームは100m先、ロービームは40m先の障害物を確認できる性能を有するよう定められています。では、車の停止距離はというと一般に時速40kmで急ブレーキをかけたときは22m、時速60kmでは44mとされています。ですから明かりのない道路を時速60kmでロービームのまま走行しているときに、前方の横断歩行者などを発見したときにはブレーキをかけても間に合わないということになります。

夜間の車対歩行者の死亡事故のうち、ハイビームであれば事故を回避できた可能性がある事故もあると推測されています。夜間走行時の基本は、

- ◎対向車や先行車、歩行者などがいない場合はハイビームを使う。
- ◎ライトの届く距離に応じた安全速度を遵守する。



安全のためには、まめにロービーム・ハイビームの切り替えをし、速度は控えめにしましょう。

新入学準備

ピカピカの1年生になるのにワクワク・ドキドキしている年長さん。おうちの方もちゃんと学校に行けるか不安と期待の時期ですね。ランドセルや机などの準備は着々と進んでいると思いますが、この時期にしっかりとやっておいてほしいことがあります。それは【通学路の確認】です。

小学校は、送り迎えの幼稚園・保育園と違い自分たちで登下校するようになりますので、今のうちから通学路をお子さんと一緒に何度も歩いて気を付けなければいけない場所を確認し、交通ルールの大切さを繰り返し話してください。気を付けなければいけない場所では、おうちの方もしゃがんだりして子どもの目線で見てください。大人と子どもでは視界がかなり違います。

子どもの事故は、道路横断中が70%以上を占めています。安全な横断、交通状況をよく見ることを習慣化させることが大切です。道路を横断するときには大事なことは『止まる』・『見る』・『待つ』

先ず、道路を渡る時は『止まる』、止まってからしっかりと『見る』、走ってくる車がいたら『待つ』、車が来ないことを確認してから渡る。渡っている間も周りの様子をよく『見る』。信号のある横断歩道を渡る時も同じです。青でも止まって確認、曲がってくる車などいないか見る。

おうちの方のドライバーの立場からも、「車は急に止まれないこと」「電柱や車の陰などドライバーから見えにくい場所があること」を教えてあげてください。



「遅刻しそう」とか「忘れ物をした」なんてことがあると慌ててしまって、安全確認が出来なくなってしまうので、学校生活に慣れるまでは、忘れ物がないかおうちの方が一緒に確認してあげるのがいいですね。

楽しい学校生活がスタートできるように【通学路の確認】も入学準備の中に入れておいてください。

